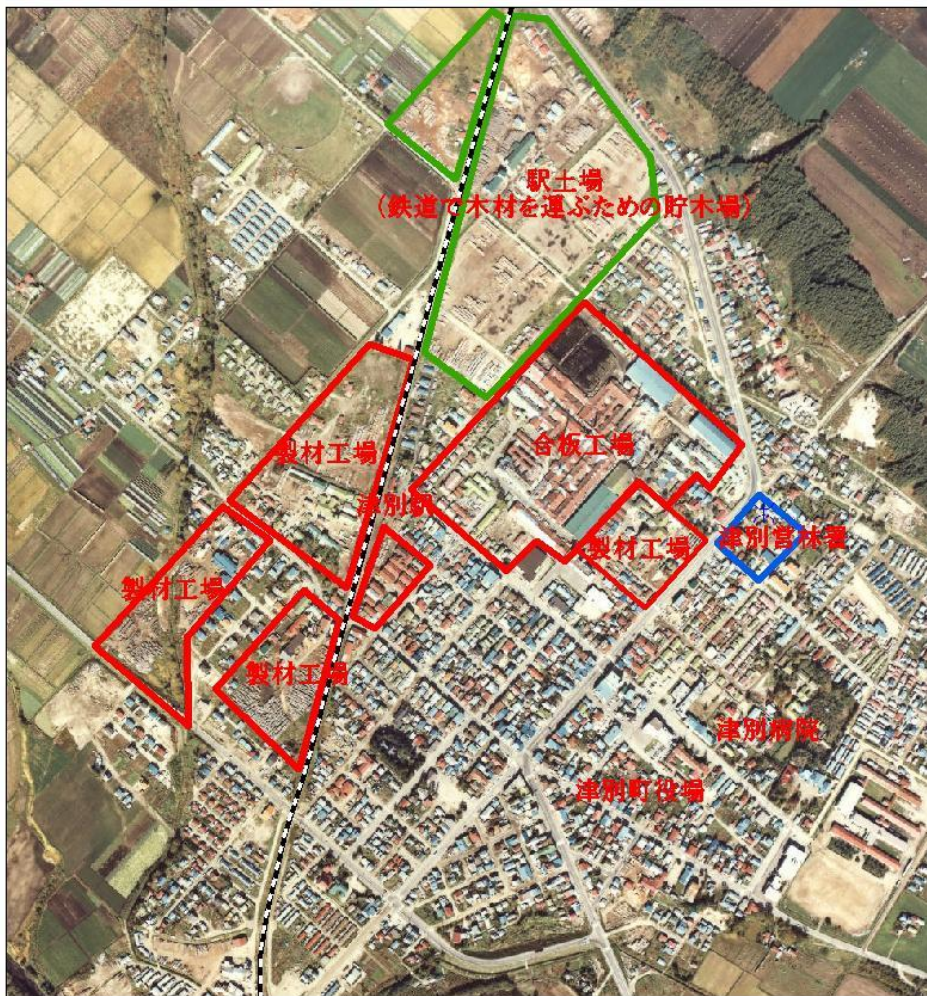


まちなか再生事業について

昭和52年の津別町



- ・中心市街地活性化事業
- ・まちなか再生支援事業

第5次津別町総合計画



・津別町第5次総合計画(平成22年3月作成)

～田園工房のまち・つべつを目指して～「町は舞台、町民が主役」

○戦略プロジェクト

1 中心市街地活性化プロジェクト

～「田園工房のまち・つべつ」と交流のまちを創るために～

2 地場産業活性化プロジェクト

～「日本一の食産業の創出」を目指して

3 津別まちづくりセンタープロジェクト

～「まちは舞台、町民が主役」の計画とまちづくりのために

・前期5年経過後の策定委員へのアンケート結果

～中心市街地の活性化プロジェクトの対応不足が指摘される

津別町中心市街地の現状

- ・現状(人口減とともに)
 - ～多くの空き家、空き店舗の存在
商業後継者不足・更新衰退
 - ～公共交通機関の不足
超高齢化社会に向けて
 - ～大型施設の老朽化(役場庁舎、JA事務所、消防庁舎等々)
耐震改修困難
 - ～不足施設(福祉センター、図書館)



中心市街地の課題

- ・庁舎建設にかかる問題

 - ～複合施設化

 - (福祉センター、図書館等や民間施設(JA、信金等))

- ・商店街形成にかかる問題

 - ～商店の存続問題、町並み形成

- ・高齢化やエコへの対応

 - ～コンパクトシティ(スマートタウン、アーバンヴィレッジ)への模索

 - ※中心市街地活性化プロジェクト(庁内組織)



まちなか再生事業への取組み

- 「まちなか再生支援事業」
 - ～財団法人地域総合整備財団（ふるさと財団）
 - 「大学連携型」による財源確保
- 筑波大学との連携
 - ～ラグビー合宿（16年間連続）
- 津別町民の検討会議とともに共同研究
 - ～若手中心、高大連携、WSを中心に
- グランドデザインの作成
 - ～方向性、施策の展開の提案



共同研究の概要(つべつくばプロジェクト)

- 持続可能なコンパクトシティへの提案
 - ～住民調査、分析、ソトモノ目線での提案
 - 筑波大学まちづくり事務所(大学院生派遣)、研究室合宿
 - ～協議会への提案支援
 - 教授陣による講演、住民会議WS支援、意見交換
- 人材育成、情報発信
 - ～WS、シンポジウムの開催
 - 協議会、高校生のWS、一般住民へのシンポジウム
- 次年度以降への仕組みづくり
 - ～継続する施策の実証、新たな提言
 - ～インターンシップ、研究室合宿の検証と継続



筑波大学
社会工学専攻長
システム情報系工学域
大澤義明 教授

本年のスケジュール(案)



・協議会、講演会等

～4月から12月まで毎月実施(別紙参照、6月・8月・1月は別メニュー)

テーマ案:「ソトモノ目線、持続可能性」「拠点整備」「都市構造」
「集合住宅」(決定日付～4/17、5/22、7/17)

～シンポジウム(6/12)

6月テーマ案「スポーツ、観光、映画」

～WS(8/22前後):研究室合宿の学生と

8月「若い世代による津別まちづくりプラン」(高校生筑波派遣は10月末)

～最終提案(シンポジウム)→報告書の作成

1月「ソトモノ・ワカモノ目線を活かす地方創生」



次年度(28年度)以降について

- ・協議会

- ～施策への意見、提言

- ～筑波大学等との連携

- インターン(津別事務所)、研究室合宿学生

- ～学習会

- 研究室合宿を行う教授等による講演会、意見交換

- ・つべつくばプロジェクト

- ～3年間継続で、詳しくは4月の協議会

